

《記入例》

介護保険負担限度額認定申請書

(R O) 年度分

〇年 〇月 〇日

久万高原町長 様

被保険者番号は、介護保険証の番号を記載してください。

次のとおり関係書類を添えて、食費・居住費（滞在費）に係る負担限度額認定を申請します。

フリガナ	クマコウゲン タロウ	保険者番号	3 8 3 8 6 9
被保険者氏名	久万高原 太郎	被保険者番号	1 0 0 0 0 0 0 0 0 0
生年月日	明・大・昭 5年 4月 1日	個人番号	9 9 9 9 9 9 9 9 9 9
住所	久万高原町久万〇〇番地	連絡先	0892-XX-XXXX
送付先住所	松山市二番町〇丁目〇番〇号 久万高原 一郎 様方	連絡先	090-XXXX-XXXX
入所（院）した介護保険施設の所在地及び名称（※）	所在地 久万高原町菅生〇番耕地〇番地〇 名称 特別養護老人ホーム〇〇荘	連絡先	0892-XX-XXXX
入所（院）年月日（※）	平成・令和 31年 4月 1日	（※）介護保険施設に入所（院）していない場合及びショートステイを利用している場合は、記入不要です。	

配偶者の有無	有・無（事実婚を含む）	左記において「無」の場合は、以下の「配偶者に関する事項」については、記載不要です。	
フリガナ	クマコウゲン ハナコ		
氏名	久万高原 花子		
生年月日	明・大・昭 5年 1月 1日	個人番号	8 8 8 8 8 8 8 8 8 8
住所	久万高原町久万〇〇番地	連絡先	0892-XX-XXXX
配偶者に関する事項	配偶者について、どちらかに〇してください。		
本年1月1日現在の住所（現住所と異なる場合）			
課税状況	市町村民税 課税・非課税		

非課税年金の有無	有・無	年金種別	遺族年金※・障害年金	※寡婦年金、かん夫年金、母子年金、準母子年金、遺児年金を含みます。	非課税年金「有」の場合は、受給している年金に〇して下さい
収入	負担段階	収入区分		預貯金等の合計額	
該当する箇所	<input type="checkbox"/>	生活保護受給者 市町村民税非課税世帯である高齢福祉年金受給者		単身1000万円（夫婦2000万）以下	
	<input checked="" type="checkbox"/>	世帯全員が市町村民税非課税	年金収入額（※）＋	80万円以下	単身650万円（夫婦1650万）以下
	<input type="checkbox"/>		その他の合計所得金額	80万円超～120万円以下	単身550万円（夫婦1550万）以下
申告	第3段階②	<input type="checkbox"/>	※非課税年金収入額を含む	120万円超	単身500万円（夫婦1500万）以下
預貯金等に関する申告	<input checked="" type="checkbox"/> 預貯金、有価証券等の金額の合計は以下のとおりです。 ※預貯金、有価証券にかかる通帳等の写しは別添のとおりに				
	預貯金額	2,000,000円	有価証券（評価概算額）	30,000円	その他（現金・負債を含む） 10,000円 ※内容を記入して下さい

申請者が被保険者本人の場合には、下記について記載は不要です。

申請者氏名	久万高原 一郎	連絡先（自宅・勤務先）	090-XXXX-XXXX
申請者住所	松山市二番町〇丁目〇番〇号	本人との関係	子

※同意書欄もご記入ください。

注意事項

- この申請書における「配偶者」については、世帯分離をしている配偶者または内縁関係の者を含みます。
- 預貯金等については、同じ種類の預貯金等を複数保有している場合は、そのすべてを記入し、通帳等の写しを添付してください。
- 配偶者の課税状況については、その配偶者の住所が町外にある場合は、最新年度の課税証明書(写)を添付してください。
- 虚偽の申告により不正に特定入所者介護サービス費等の支給を受けた場合には、介護保険法第22条第1項の規定に基づき、支給された額及び最大2倍の加算金を返還していただくことがあります。

受付	入力

同意書

久万高原町長 様

介護保険負担限度額認定のために必要があるときは、官公署、年金保険者又は銀行、信託会社その他の関係機関(以下「銀行等」という。)に私及び私の配偶者(内縁関係の者を含む。以下同じ。)の課税状況及び保有する預貯金並びに有価証券等の残高について、報告を求めることに同意します。

また、貴市(町村)長の報告要求に対し、銀行等が報告することについて、私及び私の配偶者が同意している旨を銀行等に伝えて構いません。

令和 ○年 ○月 ○日

<本人>

住所 久万高原町久万○○番地

氏名 久万高原 太郎

<配偶者>

住所 久万高原町久万○○番地

氏名 久万高原 花子

代筆者:氏名 久万高原 一郎